

---

# おとぎ話の恋

コウメ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おとぎ話の恋

### 【コード】

N0662F

### 【作者名】

コウメ

### 【あらすじ】

花梨とあつて幸せだ。そんな恋愛物語です。10年後2人はどうなっているのか。

俺は、大学1年。

今日おとぎ話な様な恋をしてしまった。そう、1学期の始めだった。俺は急いで教室に行こうとしたら、誰かとぶつかった。

「す・・すいません」

俺が当たったのにその人はあやまった。

「こっちこそゴメン」

ばらばらになった教科書を拾ってくれた。

その子は、ストレートなさらさらな髪。

綺麗な目。

白い肌。

細い手足。

いかにも、おとぎ話に出てくるお姫様なようだ。

その子は

「あたしは琴乃 花梨。よろしくね」

優しい笑顔。

「おっ・・俺は風間 優斗」

琴乃 花梨

(ここの かりん)  
かりんちゃんか！

俺が、風間優斗

(かざま ゆうと)

そしてその子はさっていった。

俺は恋におちた。

俺は何日も花梨ちゃんを探した。

俺は諦めようとしたら・・・。

「優斗くん？」

この可愛い声は・・・

と、見てみるとそこには花梨ちゃんが居た。

「かつ・・・花梨ちゃん！？」

「良かった 私の名前覚えててくれたんだ」

あたりまえじゃん。

スキなんだし！！

と心で思った。

「覚えてるよ！花梨ちゃんこそ俺の名前覚えててくれたんだ！」

花梨ちゃんが無言になった。

少ししたら

「私、ずっと優斗くんの事考えてたら今偶然会えたの。」

俺の事・・・考えてた!?

意味が分からなかった。

そしたら後ろから

「花梨ちゃん」

と男が花梨ちゃんの名前を呼んだ。

「あつ!啓!」

(けい)

おいおい・・・呼び捨て!?

完全終わった・・・。

「あとで話しあるから来て」

と行ってそいつはさっていった。

「ゴメンネ!!で・・・私ね・・・優斗くんの事が・・・  
ス・・・すごい尊敬してるの!!」

といった・・・。

ヤベー俺期待してた!

「嘘!実話・・・好きなの!!」

と言った・・・。

「えっ・・・？」

ありえない事を言われ驚いた。

「だから男の子として・・・スキなの」

花梨ちゃんの顔が赤くなっていた・・・。

「だから付き合ってください！！」

「俺なんかでいいの？」

「全然いいんです！てゆうかスキですから。」

「俺も花梨ちゃんの事好きなんだよねえ」

「本当！？ヤッタ」

「それじゃ！！」

花梨ちゃんは笑顔だった。

俺のおとぎ話のような恋が始まった。

## 邪魔物

俺と花梨ちゃんは付き合うことになった。

俺は今日デートだ。

待ち合わせより1時間も早く来ちゃった。

「早く来すぎた。コンビニでも行くか。」

とってコンビニで暇つぶしをすることにした。

待ち合わせの10分まえになって待ち合わせ場所へ向かった。

ケド花梨ちゃんは全然こない。

携帯が突然なってあわてて出た。

「はい。」

「あの・・・もしかして花梨の彼氏さんですか？」

「えっ？ハイ。そうですけど・・・」

俺は今走っている。

あのおばさんの話では、デート行く途中で変な男に声をかけられ、逃げをようとして手を振り払ったら、転んで・・・車に・・・。

病院についた。

花梨ちゃんが寝ている。

俺は思わずキスをしてしまった。

そしたら・・・おきた。

「優斗くん？」

「ああ。花梨ちゃん大丈夫かあ？」

「うん。優斗くんのキスで目が覚めたよ。」

「良かった。」

「なんか、おとぎ話みたいだね。カッコいい王子様にキスされちゃった。」

「本当だ！白雪姫だなあ」

「アハハ」

そして花梨ちゃんは軽いケガですんだ。

10年後

俺はお姫様と結婚した。

「優斗。ご飯！あつ！優花も早く起きなさい。」

甘い声がした。

結婚してから子供も生まれた。  
俺の優に花梨の花で優花だ。

俺は幸せだ。

花梨ありがとう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0662f/>

---

おとぎ話の恋

2010年10月20日19時45分発行